

ぶ り ょ う

と う げ ん き ょ う も の が た り

武陵の桃源郷物語



か ひと しっぴつしゃ たはた みつえ
書いた人/執筆者：田畑サンドーム光恵

ひと しっぴつきょうりよくしゃ にしおさちこ
てつだってくれた人/執筆協力者：西尾佐知子

ぶりょう とうげんきょうものがたり
武陵の桃源郷物語

むかしちゆうごく しん くに せんそう た もの ひとひと まず
昔 中国の晋という国で、たくさん戦争があり、食べる物がなく、人々が貧しかった
とき はなし
時のお話です。

しん ぶりょう むら まず おとこ ひと おとこ ひと
晋に、武陵という村がありました。そこに貧しい男の人がいました。その男の人は、
さかな しごと く ひ おとこ ひと かわ うえ ほう い
魚をとる仕事をして、暮らしていました。ある日、男の人は、川の上の方へ行くことに
しました。たくさん 魚を取るためでした。それまで、男の人は、川の上の方に行ったこ
とがありませんでした。

ふね すす かわ うえ ほう おお もも はやし もも はな
船をこいで進んでいくと、川の上の方には、多くの桃の林がありました。桃の花びら
が、ヒラヒラと、いっぱい落ちてきました。とてもいい匂いがしました。



かお もも はな
いい香りのする桃の花

Labelled for reuse image:

<https://bit.ly/2x36hEQ>

Copyright of image (Author): のべ吉

おとこ ひと きれい ところ にお さき
男の人は、「ここはなんて綺麗な所だろう。それにとってもいい匂いがする。もっと先
い なに おも
へ行ってみよう。何かあるかもしれない」と思いました。

おとこ ひと かわ うえ い かわ
男の人は、どんどん川の上へ行きました。川は、だんだんせまくなっていきました。
とつぜん め まえ おお やま み やま した どうくつ
突然、目の前に大きな山が見えました。そして、その山の下のほうに洞窟がありました。
どうくつ ひかり で なん
その洞窟から光が出ていました。「あれは何だろう？」



おとこ ひと ふね お どうくつ はい どうくつ なか ま くら
男の人は船を降りて、その洞窟へ入りました。洞窟の中は、真っ暗でした。が、
いちばんおく ちい おとこ ひと ちい ひかり ほう ある い
一番奥に小さな光が見えます。男の人は、その小さな光の方へ歩いて行きました。

ある い きゅう あか どうくつ お どうくつ
しばらく歩いて行くと、急に明るくなりました。そこは、洞窟の終わりでした。洞窟
で そと きれい むら
を出ると、外にはとても綺麗な村がありました。

た たくさん こめ くだもの き いえ
田んぼには、沢山のお米ができています。そして、たくさん果物の木があります。家は、
ぜんぶきれい いぬ ねこ げんき むら ひと たの
全部綺麗でした。犬や猫も元気です。その村の人たちも、みんなとても楽しそうでした。

むら ひと ひとり おとこ ひと い むら ひと
村の人の一人が、男の人に言いました。「あなたは、どこの村の人ですか」

おとこ ひと い わたし ぶりょう ちい むら き
男の人は言いました。「私は、武陵という小さな村から来ました」

むら ひと おとこ ひと
村の人たちは、男の人にごちそうしてくれました。

た とき むら ひと ひとり い むかし しん くに
ごちそうを食べている時、村の人の一人が、言いました。「昔、秦という国があり、
しこうてい おうさま しこうてい せんそう くに た
始皇帝という王様がいました。始皇帝は、たくさんの戦争をしました。国には、食べるも
のがなくなりました。たくさんの人が死にました。そこで、私たちの先祖は、秦から逃げ
て来ました。そして、ここに隠れて住み始めました。私たちは、その時から何百年もこ
こで暮らしています。私たちは、外の世界のことを知りません。今は一体、何の時代です
か」と聞きました。

おとこ ひと おし しん ほろ ちい
男の人は、みんなに教えてあげました。「秦は、滅びました。そして、たくさんの小
さな国ができて、戦争をしました。でも、大きな漢という国ができました。漢も滅びまし
た。その後、3つの国に分かれました。今は、それが晋という一つの国になっています」

むら ひと はなし き い
村の人は、その話を聞いてびっくりしました。「へー、へー、すごいなあ」と言いまし
た。

そと せかい はなし き むら ひと おとこ ひと いえ しょうたい
外の世界の話を聞きたいので、村の人たちは、みんな男の人を、それぞれの家に招待
しました。男の人は、あちこちの家へ行って、お話ををしてあげました。

すうじつ おとこ ひと じぶん いえ かえ むら ひと
数日がたちました。男の人は、自分の家に帰りたくなりました。そして、村の人たち
に「そろそろ家へに帰ろうと思います」と話をしました。

すると、村の人の一人が言いました。「あなたが、ここに来たことを、他の人に話さない
いでください。また、ここで聞いたことを、話さないでください。約束してください」

男の人は、船に乗り、家へ帰りました。男の人は、帰る時、目印をつけておきました。

そうすれば、また、あの綺麗な「桃の林の始まる所にある村」に行けるからです。

自分の村、武陵に帰ってすぐに、男の人は皆に、「桃の林の始まる所にある村」の
話をしました。そう、男の人は、あの綺麗な村の人たちとの約束を守らなかったのです。

その綺麗な村の話は、すぐに王様にも届きました。王様は、男の人をお城に呼びました。

そして、男の人に、その村について聞きました。

男の人は言いました。「その村には、たくさん食べ物があります。家もみんな綺麗です。

犬も猫も元気です。村の人たちは、とても幸せです」

その話を聞いた王様は、言いました。「私も、その村に行きたい」

男の人は答えました。「だいじょうぶです。ちゃんと目印をつけておきましたから、そ
の村に行く道がわかります」

王様と家来と男の人は、船で川の上の方まで行きました。そして、目印を探しました。

しかし、どんなに探しても、目印は見つかりませんでした。最後には、みんなあきらめて
帰りました。

それから、たくさんの人が、この男の人が行った、あの綺麗な「桃の林の始まる
所にある村」を探しました。でも、誰も見つけることができませんでした。

やがて、この「桃の林の始まる所にある村」は、夢の国だと思われるようになりまし
た。そして「桃源郷」と呼ばれるようになったそうです。(1121語)